

引き継ぎがカギ!長期欠席・不登校対策の第一歩を確実に

今年度の支援を振り返り、成果や課題を整理しながら、次年度に向けた引き継ぎを行う時期となりました。日々、子どもたちに寄り添う先生方が、子どもたち一人ひとりの状況を最もよく把握しており、これまでの支援や配慮を次の担任等より丁寧に引き継ぐことがとても重要です。今号では、子どもたちが安心して新年度を迎えることができた事例をご紹介します。



事例1:Aさん(不安軽減)

昨年度3学期、友人関係の不安から登校が難しくなったAさん。SCと面談を行いながら、気持ちが外に向かうよう支援してきました。

新年度に向けては、3月に登校支援チームで「Aさんの不安を解消するにはどんな支援が必要か」を話し合いました。その中で、見通しをもてるようにすることが大切だと考え、新年度の情報を事前に伝えることにしました。旧担任から「新しいクラスは～だよ。」「担任の先生は～だよ。」とどんな内容を始業式の前にAさんに伝えるか準備しました。

その結果、始業式にAさんは登校することができ、現在は気持ちの不安から欠席することもあります。再び登校できるようになりました。



Q:Aさんの情報はどのように共有したの?

A:毎月の職員会議や毎週の終礼で児童理解の時間を設け、**継続的に情報を共有**しています。また、**支援対象者リストやアセスメントシートも活用して、必要な情報を全職員で確認**しています。Aさんの状況や配慮事項について、全職員が共通理解していたので、チーム会ではAさんが安心して登校できる具体的な支援をすぐに考えることができました。

Q:引き継ぎで大切にしていることは何なの?

A:**新年度は子どもたちにとって気持ちが切り替わる「きっかけ」であり、支援のチャンス**だと考えています。子どもたちの後押しができるよう、登校の不安を整理し、どうすれば乗り越えられるかチームで考えることを大切にしています。



事例2:Bさん(支援体制の工夫)

昨年度末、学校行事への不安から欠席が増え、「状態2」になったBさん。Bさん、保護者と相談し、「できることを少しずつ」と、放課後登校などで支援を行ってきました。

新年度に向けては、全職員に情報を周知し、担当者を中心に引き継ぎを行いました。保護者とも相談しながら、SCや養護教諭と共に支援体制を整え、保護者の付き添いで短時間の登校から始めました。

新しい教室に慣れるため、柔軟に場所を変えながら支援し、運動会に参加したことをきっかけに、保護者と離れて教室で過ごせるようになりました。

その後も、Bさんの思いを大切に、継続的な支援を行い、現在では欠席が続くことなく、教室で学校生活を送っています。



Q:支援体制のポイントは何なの?

A:Bさんには**長期的な支援が必要である**と見立てていました。そのため、「**誰が・どこで・どのように対応するのか**」という具体的な案を複数考え、あらかじめ共有しました。また、保護者とも相談しながら方針を調整し、必要に応じてすぐに対応できるよう準備を整えていきました。

Q:なぜ、切れ目のない支援が実現できたの?

A:**週1回の生徒指導終礼で支援の方向性や具体的な対応を、全職員で共有していた**ことが大きいのです。SSW、SC、支援員、通級指導の担任、担任等が、Bさんを支援する仲間として連携し、それぞれの役割を果たせたことが理由だと考えています。

チーム学校で対応するためには…。

より効果的な支援を行うためには…。



まとめ

引き継ぎは、子どもや保護者の安心につながる大切な一歩です。子どもたちの「4月からがんばれそう」という気持ちを支えるために、今年度の思いと実践を次年度につないでいきましょう!!